

大会経費V2（バージョン2）について

1 経費分担試算（V2）

	組織委員会	東京都	国	合計
会場関係	1,800 億円 (400 億円)	4,900 億円 (200 億円)	1,400 億円 (200 億円)	8,100 億円 (800 億円)
恒久施設	—	2,250 億円	1,200 億円	3,450 億円
仮設等	950 億円	2,100 億円	} 200 億円	} 4,650 億円
エネルギー	150 億円	250 億円		
テクノロジー	700 億円	300 億円		
大会関係	4,200 億円 (200 億円)	1,100 億円 (100 億円)	100 億円 (100 億円)	5,400 億円 (400 億円)
輸送	250 億円	250 億円	} 100 億円	} 5,400 億円
セキュリティ	200 億円	750 億円		
オペレーション	1,000 億円	100 億円		
管理・広報	600 億円	0 億円		
マーケティング	1,250 億円	0 億円		
その他	900 億円	0 億円		
計	6,000 億円 (600 億円)	6,000 億円 (300 億円)	1,500 億円 (300 億円)	13,500 億円 (1,200 億円)

(注1)このほかに予備費1,000億円～3,000億円がある。

(注2)()は、うちパラリンピック経費分である。

2 経費増減（大枠合意とV2との比較）

（単位：億円）

区分	大枠合意	V2	増減	主な内容
会場関係	8,350	8,100	▲ 250	
恒久施設	3,450	3,450	0	
仮設等	3,400	3,150	▲ 250	・競技会場等の整備費単価の見直しによる減
エネルギー	500	450	▲ 50	・電源設備の二重化の要件緩和等による減
テクノロジー	1,000	1,050	50	・放送用回線の地中化等の要件緩和による減 ・警備用ネットワーク経費の統合による増
大会関係	5,500	5,400	▲ 100	
輸送	800	500	▲ 300	・大会関係者用公共交通の無料化費用の見直しによる減 ・大会関係者用自動車・バス関連費用の見直しによる減（借上期間の見直し等）
セキュリティ	1,050	1,000	▲ 50	・通信ネットワークとの一部機能共通化に伴う警備用ネットワークの見直しによる減
オペレーション等	3,650	3,900	250	・会場演習を踏まえた会場運営の人員等による増 ・倉庫の賃借期間の増加等による増
計	13,850	13,500	▲ 350	

3 経費分担試算（大枠合意とV2との比較）

※〈 〉書の増減は大枠合意との比較

	V2				〔参考〕大枠合意			
	組織委員会	東京都	国	合計	組織委員会	東京都	国	合計
会場関係	1,800億円 〈▲200〉 (400億円) —	4,900億円 〈▲50〉 (200億円) —	1,400億円 — (200億円) —	8,100億円 〈▲250〉 (800億円) —	2,000億円 (400億円)	4,950億円 (200億円)	1,400億円 (200億円)	8,350億円 (800億円)
恒久施設	—	2,250億円	1,200億円	3,450億円	—	2,250億円	1,200億円	3,450億円
仮設等	950億円	2,100億円	200億円 —	4,650億円 〈▲250〉	2,000億円	2,700億円	200億円	4,900億円
エネルギー	150億円	250億円						
テクノロジー	700億円	300億円						
大会関係	4,200億円 〈+200〉 (200億円) —	1,100億円 〈+50〉 (100億円) —	100億円 — (100億円) —	5,400億円 〈▲100〉 (400億円) —	4,000億円 (200億円)	1,050億円 (100億円)	100億円 (100億円)	5,500億円 (400億円)
輸送	250億円	250億円	100億円 —	5,400億円 〈▲100〉	4,000億円	1,050億円	100億円	5,500億円
セキュリティ	200億円	750億円						
オペレーション	1,000億円	100億円						
管理・広報	600億円	0億円						
マーケティング	1,250億円	0億円						
その他	900億円	0億円						
計	6,000億円 — (600億円) —	6,000億円 — (300億円) —	1,500億円 — (300億円) —	13,500億円 〈▲350〉 (1,200億円) —	6,000億円 (600億円)	6,000億円 (300億円)	1,500億円 (300億円)	13,850億円 (1,200億円)

(注1)このほかに予備費1,000億円～3,000億円がある。

(注2)()は、うちパラリンピック経費分である。

参考 1 組織委員会及びその他の経費（V2、ハード・ソフト別）

	組織委員会	その他	計
ハード（会場整備）	1,100 億円	5,950 億円	7,050 億円
恒久施設	—	3,450 億円	3,450 億円
仮設等	950 億円	2,200 億円	3,150 億円
エネルギー	150 億円	300 億円	450 億円
ソフト（大会運営）	4,900 億円	1,550 億円	6,450 億円
輸送	250 億円	250 億円	500 億円
セキュリティ	200 億円	800 億円	1,000 億円
テクノロジー	700 億円	350 億円	1,050 億円
オペレーション	1,000 億円	150 億円	1,150 億円
管理・広報	600 億円	0 億円	600 億円
マーケティング	1,250 億円	0 億円	1,250 億円
その他	900 億円	0 億円	900 億円
計	6,000 億円	7,500 億円	13,500 億円

(注)このほかに予備費1,000億円～3,000億円がある。

参考2 経費増減（V1とV2との比較、ハード・ソフト別）

（単位：億円）

区分	V1	V2	増減	主な増(+)	主な減(▲)
ハード（会場整備）	6,800	7,050	250		
恒久施設	3,500	3,450	▲ 50	—	—
仮設等	2,800	3,150	350	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非競技会場の仮設整備費等の増 ・ 競技用構築物等の追加による増 ・ 都内会場・地方会場の費用計上による賃借料・営業補償の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技会場等の単価精査 ・ コンディション&パリュエンジニアリングの取組（観客席数等の見直し）
エネルギー	500	450	▲ 50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加種目・テストイベントが行われる会場における仮設電源設備の設置費等の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場毎の単価・サービス水準の見直し等による減 ・ 追加3会場における電源設備の二重化について、発電機の活用等の要件緩和により不要
ソフト（大会運営）	8,200	6,450	▲ 1,750		
輸送	1,400	500	▲ 900	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス運行時間の延長によるバス運行管理業務費の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象者を大会関係者のみとするとともに利用頻度等の精査により、公共交通無料化費用の見直し ・ 公有地賃借における無償化により、車両拠点箇所等の用地賃借料の減 ・ 借上期間等の見直しによるバス車両費の減
セキュリティ	1,600	1,000	▲ 600	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警備機器費の増 ・ ICチップの導入による入退場管理の強化に伴う増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信インフラとの一部機能の共通化による警備用ネットワークの設計・敷設等の見直し・移管
テクノロジー	1,000	1,050	50	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加種目に係る放送用映像回線の整備費・利用料の増 ・ 通信インフラとの一部機能の共通化による警備用ネットワークの設計・敷設等の受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方会場の一部で放送用映像回線の地中化の見直し ・ 業務用無線の仕様の見直し ・ サービスレベルの見直しにより、情報システム、大型映像装置、携帯電話通信、通信インフラ、音響/映像装置、インターネットの経費の減
オペレーション	1,000	1,150	150	<ul style="list-style-type: none"> ・ IOCの知見を踏まえたスポーツプレゼンテーションの検討具体化に伴う増 ・ 競技運営体制の具体的検討を踏まえた競技運営費の増 ・ 会場演習を踏まえた会場運営の人員等による増 ・ 倉庫の賃借期間の増加等による増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピックファミリーホテルの客室の仕様・室数の精査 ・ 選手団向け旅費の単価精査による減
管理・広報	900	600	▲ 300	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員旅費等の減
マーケティング	900	1,250	350	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポンサー収入の増加に伴い支払うロイヤリティ等の増加 ・ チケットのシステム開発費の増 	—
その他	1,400	900	▲ 500	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加種目の具体化による減
計	15,000	13,500	▲ 1,500		

参考3 組織委員会及びその他の経費（V1とV2との比較、ハード・ソフト別）

※〈 〉書の増減はV1との比較

	V2						〔参考〕V1		
	組織委員会		その他		計		組織委員会	その他	計
ハード（会場整備）	1,100億円	〈+200〉	5,950億円	〈+50〉	7,050億円	〈+250〉	900億円	5,900億円	6,800億円
恒久施設	—	—	3,450億円	〈▲50〉	3,450億円	〈▲50〉	—	3,500億円	3,500億円
仮設等	950億円	〈+150〉	2,200億円	〈+200〉	3,150億円	〈+350〉	800億円	2,000億円	2,800億円
エネルギー	150億円	〈+50〉	300億円	〈▲100〉	450億円	〈▲50〉	100億円	400億円	500億円
ソフト（大会運営）	4,900億円	〈+800〉	1,550億円	〈▲2,550〉	6,450億円	〈▲1,750〉	4,100億円	4,100億円	8,200億円
輸送	250億円	〈+150〉	250億円	〈▲1,050〉	500億円	〈▲900〉	100億円	1,300億円	1,400億円
セキュリティ	200億円	—	800億円	〈▲600〉	1,000億円	〈▲600〉	200億円	1,400億円	1,600億円
テクノロジー	700億円	〈+150〉	350億円	〈▲100〉	1,050億円	〈+50〉	550億円	450億円	1,000億円
オペレーション	1,000億円	〈+500〉	150億円	〈▲350〉	1,150億円	〈+150〉	500億円	500億円	1,000億円
管理・広報	600億円	〈▲200〉	0億円	〈▲100〉	600億円	〈▲300〉	800億円	100億円	900億円
マーケティング	1,250億円	〈+450〉	0億円	〈▲100〉	1,250億円	〈+350〉	800億円	100億円	900億円
その他	900億円	〈▲250〉	0億円	〈▲250〉	900億円	〈▲500〉	1,150億円	250億円	1,400億円
計	6,000億円	〈+1,000〉	7,500億円	〈▲2,500〉	13,500億円	〈▲1,500〉	5,000億円	10,000億円	15,000億円

（注）このほかに予備費1,000億円～3,000億円がある。

参考4 組織委員会予算（V2）

収 入

項 目	金 額
IOC負担金	850 億円
TOPスポンサー	560 億円
国内スポンサー	3,100 億円
ライセンスング	140 億円
チケット売上	820 億円
その他	330 億円
増収見込	200 億円
計	6,000 億円

支 出（ハード・ソフト別）

項 目	金 額
ハード（会場整備）	1,100 億円
仮設等	950 億円
エネルギー	150 億円
ソフト（大会運営）	4,900 億円
輸送	250 億円
セキュリティ	200 億円
テクノロジー	700 億円
オペレーション	1,000 億円
管理・広報	600 億円
マーケティング	1,250 億円
その他	400 億円
調整費	500 億円
計	6,000 億円

参考5 組織委員会予算（V1とV2との比較）

※〈 〉書の増減はV1との比較

収 入

項 目	V 2	[参考] V 1
IOC負担金	850 億円 —	850 億円
TOPスポンサー	560 億円 〈+200〉	360 億円
国内スポンサー	3,100 億円 〈+600〉	2,500 億円
ライセンス	140 億円 —	140 億円
チケット売上	820 億円 —	820 億円
その他	330 億円 —	330 億円
増収見込	200 億円 〈+200〉	— 億円
計	6,000 億円 〈+1,000〉	5,000 億円

支 出（ハード・ソフト別）

項 目	V 2	[参考] V 1
ハード（会場整備）	1,100 億円 〈+200〉	900 億円
仮設等	950 億円 〈+150〉	800 億円
エネルギー	150 億円 〈+50〉	100 億円
ソフト（大会運営）	4,900 億円 〈+800〉	4,100 億円
輸送	250 億円 〈+150〉	100 億円
セキュリティ	200 億円 —	200 億円
テクノロジー	700 億円 〈+150〉	550 億円
オペレーション	1,000 億円 〈+500〉	500 億円
管理・広報	600 億円 〈▲200〉	800 億円
マーケティング	1,250 億円 〈+450〉	800 億円
その他	400 億円 〈▲250〉	650 億円
調整費	500 億円 —	500 億円
計	6,000 億円 〈+1,000〉	5,000 億円

参考6 今後の検討課題

共通事項

- IOCから資料提供された過去大会実績を踏まえた見直し
- 暑さ対策・集中豪雨・台風対策
- ラストマイルにおける観客誘導・周辺警備
- テクノロジーを活用したイノベーションの推進
- テストイベントの一括予算化
- 会場毎のサービス水準の見直し、会場・競技毎の予算管理
- 調達面での効率化

ハード(会場整備)

- 民間コンサルの活用による単価検証・CVE(※)の実施
- 仮設観客席の見直し
- 会場借上期間の短縮化
- 電源設備の二重化の見直し
- 会場内のオーバーレイ受電設備に係る設計の効率化

※ CVE…コンディション&バリューエンジニアリングの略。整備の前提となる条件を含んだバリューエンジニアリングのこと。

ソフト(大会運営)

- 通信インフラの地中化の見直し
- 放送用映像回線の利用料・整備費の低減
- 競技会場に敷設するネットワーク、AVシステム、携帯電話、各種IT機器の調達価格・数量の精査
- 大会時の輸送サービスにおける行政が担う業務との整理
- 輸送計画の具体化における効率化
- ステークホルダーの動向分析を踏まえた車両台数・ドライバー所要人数の精査
- 大会時の警備サービスに係る行政が担う業務との関係の整理
- 警備計画が具体化していく中での効率化の追求
- 大会役員数の最適化のためのIOCからIF等への働きかけの要請
- オリンピック・パラリンピックファミリー向けのホテルの関連経費・食事等の効率化
- 画像診断の医療機器の効率化等
- 各種ユニフォームの効率化
- 多様な人材の適正配置
- チケット販売の効率化・レガシー化

参考7 25の項目

(IOCプロジェクトレビュー(平成29年10月)において、組織委員会からIOCに提案したコスト削減項目)

共通事項

- テストイベント

ハード

- CVEによる仮設の効率化
- 仮設整備費
- 電力設備の二重化
- 仮設の規模とコスト
- 会場におけるバス待機場
- 会場の借り上げ期間の短縮

ソフト

- 放送用映像回線のルート構築・二重化
- 携帯電話通信
- 観客向け公共交通の無料化

(右につづく)

- フリーの台数
- スポーツプレゼンテーション
- 大会役員の数
- 競技用備品
- スポーツ振興プログラム/国際スポーツ振興プログラム
- オリンピックファミリーホテル運営費
- 画像診断等の医療機器
- 馬の輸送
- 選手村レクリエーション
- 五輪ファミリー向けの食事
- 組織委員会の人件費
- ボランティア
- チケット販売
- 大会ルックの制作・実装
- 開閉会式